

丞子

○この際は風のみ通る遍路道

○スニーカーの底に噛み付く春の泥

春昼の境内闊歩鶏十羽

郁子

○春泥を晴着の二十見詰めをり

春の泥探し乗つたる土讃線

梵鐘に和して遍路の詠歌澄み



えり

○連翹が咲いたと夢に妣の声

一滴の露かがやかせ落椿

指切りは忘れましようねチューリップ

春泥や何思い積む嘴広鶴

春暁や月半輪の赤き洩

夕子

○父の遺品に白紙のままの遍路案

青空に辛夷が映えて人に伝え

早々と田に水を張り泥は苗待つ

○春の泥こはごはやがて嬉嬉として

千代

○Tシャツの絵柄はゲバラ徒遍路

○春昼や勝手に終る掃除ロボ

○春泥を跳び越えもせず虐待死

○冴返る帰還困難区域なほ

春泥に買ったばかりの靴が噫

○枝に吊る手書き目印遍路道

○橋くぐる櫓音かるやか桜東風

春泥や二枚歯高き宿の下駄

さえ

文子

○鈴の鳴る杖を力に遍路道

○腰掛けて見て穏やかな桜草

春泥や跳び損ねたり揺らぎけり

○春泥に紙飛行機の不時着す

春の泥ゴム長の師や春野から

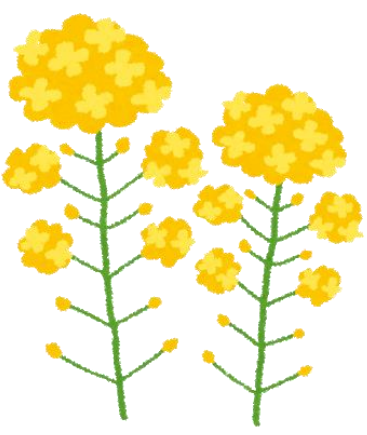
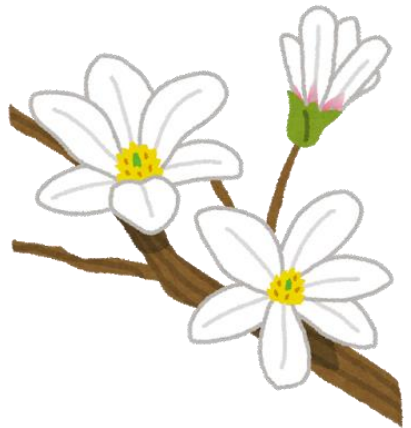
ギコギコと畳の凹む遍路宿

農子

春泥の足跡廊下に猫昼寝

自転車の前後に荷物遍路笠

春疾風薔薇一輪や枝の先



味元 昭次 作品

子遍路の菜の花揺らしつつ過ぎぬ

同行二人水平線へ消えてゆく

春の泥踏み馬面の獣医来し

初江

○もみじ橋又を雁切橋おぼろ

○春泥に声高くなる園児の列

菩提寺の住職と行くバス遍路

富江

○軽やかに春泥跨ぐハイヒール

遍路ツアー渡船乗り込む間の会話

春の泥飛んで追いつき弟も

ゆの

○てすさびの少女の塑像春の泥

碧い瞳のお遍路さん来竹林寺

掌に触れて香いでみるなり春の水

弘